



佐藤市長、大分市のアートを活かしたまちづくりの取り組みには、どのようなものがありますか。

市長 最近、若手を中心に大分で活躍するアーティストが出ていて、その中には、大分で生まれ育った人だけでなく、県外から移り住み大分に新たな風を送り込んでいる人も多く、大分ならではの現代

アートを生み出しています。本市では、これらのアーティストや建築、イラストレーション、デザインなどさまざまな分野のクリエイターに焦点を当て、特別展「C I A O! (チャオ)」を市美術館で開催しています。

また、昨年も中心市街地を舞台にインスタレーションやウォールアート、アートイベントを軸とし

上げる取り組みを行っています。フランスのマルセイユも数年前に選ばれ、このPR効果を最大限に活かしながら文化政策、都市整備政策をしっかりと展開し、観光地としての認知度を高めつつあります。

改めて大分をみれば、まちにさまざまなアート作品が蓄積されつつあります。磯崎新先生設計の建物、彫刻群、まちなかから西大分港、田ノ浦エリアに広がるアート群といった今ある作品と、さらに今後展開していく中で、見せ方の工夫とともに効果的なPRをして、観光産業振興につなげていくのは重要だと思います。

市長 カナダ東部ケベックシティの旧市街は、1985年にユネスコの世界遺産にも登録されています



ビルバオ(スペイン) グッゲンハイム美術館

たアートフェスティバル「回遊劇場SPiRAL」を行いました。建物の壁面や商店街のシャッターに壁画を制作するウォールアートなどは、イベントの回数を重ねるごとに作品がまちなかに蓄積していくし、これを見るために回遊性が高まりますね。

周辺地域での取り組みとしては、佐賀関や大南、野津原地区で「アートレジオン推進事業」を行っています。この事業は、人口減少や少子高齢化が進む地域に市内外からアーティストを呼び込んで、地域の活性化につなげる取り組みです。旧大志生木小学校では、校舎をアトリエとして活用し、これまでに現代美術家やイラストレーター、ワイヤー彫刻家など7組のアーティストの利用があり、ワークショップやアトリエの公開などを通じて地元住民との交流もあります。アメリカのカリフォルニア州北部にメンドシーノというアーティストが多く住む村があつて、アートや工芸品が並べられたギャラリーがたくさんあり、いつも活気に満ちています。大志生木が将来的にメンドシーノのようなアーティスト村になったら素晴らしいですね。

うした場所や集いが生まれれば、クリエイティブ産業の振興といった可能性も期待できるのではないのでしょうか。

北村 僕も商品パッケージの話はいろいろな会社からもらいますが、パッケージとして大量にデザインが市場に出回る分、自分の作風が消耗するリスクはありますね。ただ、多少リスクを感じても、県内企業は優先的に請け負っています。僕がパッケージのデザインをした商品が、大分に来れば販売しているというのが理想ですね。

未来のアーティストを育てる

実は、私は7歳の娘がおりまして(笑)、一緒に絵を描いたりするんですが、年齢の割には大人っぽい絵を描いたりするので、将来どうなっていくのか心配です。

北村 子どもが、のびのび子どもっぽい絵を描くことも大切だと思いますが、大人びた絵を描くことも心の成長の一つなんじゃないかな。僕はその子どもの時の絵をとっておくことをお勧めします。子どもの頃、自分が自由だったこ

アートを産業に活かす

産業としてどのようにアートを活用していくかというのも重要なことだと思いますが、どのようにお考えですか。

佐藤 以前、北村さんが市報のインタビューで、自身の絵が大分の観光資源になるのが夢とおっしゃっていました。まさに、観光産業振興のコンテンツとなり得ると思います。

スペインのバスク地方にビルバオという人口約35万人の都市があります。かつては造船や鉄鋼で栄えた都市でしたが、重工業の衰退で、まちが活気を失いました。そこで都市整備政策の大型プロジェクトとして、造船所跡地にコンサートホールを、また新たにフランク・ゲーリー設計のグッゲンハイム美術館を建設しました。美術館は予想以上の来場者で、観光都市として見事に活気を取り戻しました。現在も、美術館だけで年間約130万人の来場者があり、ビルバオの観光産業をアートが核となって支えています。またEUでは、「欧州文化首都」を指定して、1年間徹底的にその都市での文化芸術イベントを支援し、地域を盛り

とを思い出すし、大人になっても子どもの心でいい絵が描けると思っています。大人にこそ自由に描いてもらいたいですからね。

議長 子どもは、形にとらわれず自由な発想で描けるから光る作品が出てくるよね。そして、成長する中で形を学び、最後は形を超越して自分で新たなものを創り出す。その過程で人間性や人としての度量、優しさ、包容力などが育っていくんだろうと思いますね。

佐藤市長、最後に一言いただけませんか。

市長 アートは人生の豊かさや心の潤い、生きていく上での喜びや感動を与えてくれます。魅力的なまちづくりをするためには、そういうものを大切にしないとイケないし、そういうものがあふれているまちは魅力のある都市だと思えます。行政としてもアーティストの皆さんに大分市を創作活動の場を選んでもらえるように、またアートが産業につながるよう取り組んでいきます。

本日はありがとうございました。(了)

アートを観光産業につなげる